

施設を見学した参加者の意見

(一部抜粋)

- ▶入院数が減少しているのであれば、6人部屋を4人部屋に改善できるのでは。新築費用を考えれば、補修対応で可能。(60代男性)
- ▶築38年経過で当時の入院患者の状況と、現在の高齢化による状況に対応できていない。特にトイレ、浴室。(60代男性)
- ▶年々、患者が少なくなる中で、運営が本当にできるのかと感じた。より議論を深めた整備をお願いしたい。(50代男性)
- ▶施設の老朽化は理解できた。快適な治療環境やプライバシーの確保がない。(50代男性)
- ▶病院の目的が時代と共に変化し、状況に対応できていない現実があった。(50代女性)
- ▶場所的にも、他への移転建て替えが必要と感じた。大災害が起こる前に。(50代女性)
- ▶他の病院より非常に老朽化しているため、早急な建て替えが必要と思った。(70代男性)
- ▶30年前の建物や施設に現代の医療の在り方を当てはめれば必ず多くの問題点が出てくる。(30代男性)
- ▶職員の業務不便箇所が患者への負担に。老朽化と古い構造が故。(30代男性)
- ▶建設に向け、現代的機能を有する設備、建設にすべき。(70代男性)
- ▶患者は寝たきりが多いのにトイレの入り口や内部が狭い。(70代女性)
- ▶増築もあり、働く職員や患者さんの動線が長すぎる。(50代女性)
- ▶入院する患者の重症化により、設備(トイレ、浴室等)が使えない。(50代女性)
- ▶建て替えの方向で行くしかないと感じたが、将来的に赤字になるとの説明を聞いたら建てるのが怖くなった。(50代女性)



施設見学後の意見交換会の様子

「4階病棟は寝たきりの患者さんが多く、ポータブルトイレや人工呼吸器、点滴などが置かれています。旧基準の病室はせまく、ベッド間での作業はスタッフだけでなく、患者さんにとっても大変なことです。」と話す4階病棟の新原看護師長。

高齢化で慢性期医療が必要な患者が増える一方、医療現場の人材不足も課題。「東西に長く配置された病室では、認知症患者などの見守りが困難なケースもあります。」と続ける。増え続ける高齢の慢性期患者に対応した施設整備が求められる。

増え続ける慢性期患者



Pickup

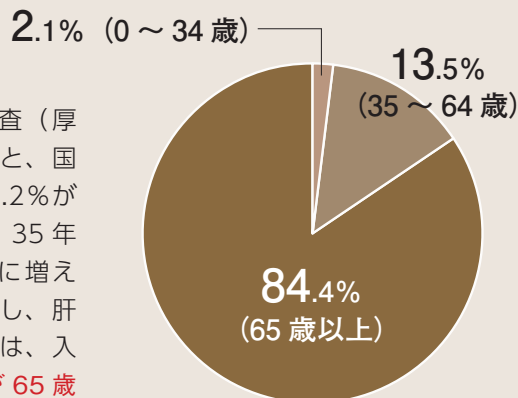
3階病棟は歩けない患者用の特浴施設がありません。入口がせまいため、廊下でストレッチャーに移しての入浴となります。

新原喜代子 看護師長

入院患者の約8割が65歳以上

医師会立病院の入院患者の8割以上を65歳以上の高齢者が占めている。日本全体で見ると、病院が建設された昭和55年頃と比較して2倍以上に増えており、入院患者全体の高齢化が問題となっている。治療が終わっても自宅へ戻れないケースや、介護施設の入所待ちなど、長期入院となる社会的入院も多い。

今後、団塊の世代が75歳を迎える「2025年問題」。経験したことのない超高齢社会を前に、住み慣れた地域でお互いに支えあう仕組みづくりが急務となっている。



平成26年患者調査(厚生労働省)によると、国内の入院患者の71.2%が65歳以上である。35年前に比べ、約2倍に増えている。これに対し、肝属郡医師会立病院は、入院患者の84.4%が65歳以上の高齢者という高い割合になっている。

平成29年度年代別入院患者の割合(肝属郡医師会立病院)